

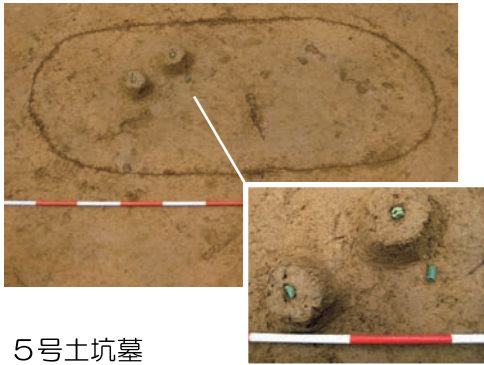
土坑墓・埋設土器



SK1 (土坑墓) 68点のガラス小玉がまとめて出土していることから身に着けて埋葬された可能性が高く、そのため、頭部の方向は南東(写真の左側)だと推測されます。分析の結果、カリガラスという種類を原料として熱し、引き伸ばして管状にしたものを切断したことがわかりました。カリガラスには淡青色と青紺色のものがあり、山元遺跡のような淡青色のものは畿内で作られたと考えられています。



1号土坑墓 底の近くから副葬品と思われる石の矢じり5点が見つかりました。他に、お墓の上の方からは、割れたガラス小玉や筒形銅製品という青銅器、その下からは石器を作るときに大きな石を割ってその素材にした石のかけら(剥片)がまとめて出てきました。お墓を埋める途中や埋めた後に置いたか撒かれたようです。このような埋葬形態は山元遺跡より前の時代からの伝統か、あるいは、北の縄文文化の影響と考えられます。



5号土坑墓 1号土坑墓と同じく、お墓の上の方から管玉が割れた状態で出土しました。故意に割った痕跡が見られ、やはり北の文化の影響がうかがえます。



埋設土器A 壺形の土器が口を下にして、逆さまの状態で見つかりました。副葬品は見つかっていません。



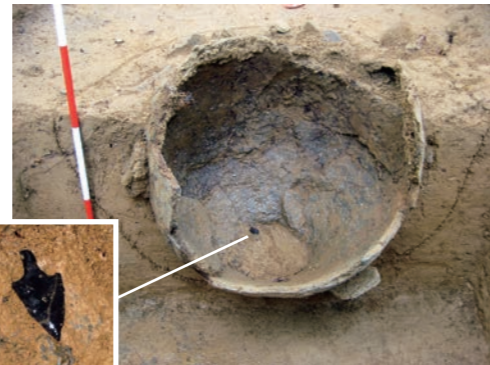
筒形銅製品 上の写真の★で見つかりました。槍の石突、または特殊な杖の頭部につけられた威信具と考えられます。現在のところ全国で10例あり、主に東海・南関東に分布しています。鉛の成分を分析したところ、中国の鉛を使って日本で作られたことがわかりました。



埋設土器B 壺形土器の底部から鉄剣が見つかりました。小型のため、使い減りしたか、破損したものを修復したようです。



埋設土器C 壺形土器の内外からたくさんの土器片が見つかりました。出土位置を詳細に調査したところ、表紙の出土遺物写真のように壺形土器の上に、小型の壺形土器が蓋のように伏せられていたと想定できました。壺形土器は故意に底が抜かれていて、そこから石鏃が出土しています。



名称●国史跡 山元遺跡
所在地●新潟県村上市下助測字山元、字浦山
史跡指定年月日●平成28年10月3日
指定面積●43,186.88㎡
発行 令和2(2020)年3月
編集・発行 村上市教育委員会
生涯学習課 文化行政推進室
〒958-0854
新潟県村上市田端町4番25号
村上市教育情報センター内
TEL 0254-53-7511
FAX 0254-52-4133



南方向からの遠景 (○が山元遺跡)

国指定史跡 山元遺跡



(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団提供

南西から見た山元遺跡

山元遺跡は越後平野北部の丘陵の上に営まれた、弥生時代後期(今から1,900年前)に最盛期を迎える集落跡です。日本海沿岸東北自動車道の建設に先立ち、新潟県教育委員会が行った試掘調査(遺跡の有無を調べる調査)で発見され、重要な遺跡であることがわかり、現状保存されました。その後、村上市教育委員会が調査を引き継ぎ、遺跡の内容と範囲を確認することを目的とした確認調査を行いました。

その結果、山元遺跡が北陸の文化と東北の文化の接点に位置する日本海側最北の「高地性環濠集落」であることが明らかとなりました。「高地性環濠集落」とは高台に作られ、周りに濠をめぐらせた集落のことを指し、戦いを想定した防御のムラといった性格を持つと考えられています。

そういった弥生時代のようなすを知る上で貴重な遺跡であることが認められ、平成28年10月に国の史跡に指定されました。



出土遺物

小川忠博撮影